

待
13
2208
7

星月夜顯晦録二編卷之四

目錄

○ 実朝々北条が亭まこととよむらうがていあぐり危難きざん結城朝光君むすしほを翼佐よくさ

畠山重忠はたけやまのちゅうしゅう又子のまたこの伝つたふふ足行あしゆきりりきき

名哉なげの亭ていは涼風りやうふうの宴えんを催もよほを号ごう

○ 時政ときまさ落飾らくしやく牧まきの方のあた自害じがい時執権ときしやくけんの職しやくを續つづ

実朝まこと々とよむらう危難きざんの号ごう

星月夜二編卷之四

時政遁世牧の方自害の図

○和田義盛吾妻助光が隨兵不系の罪を以

吾妻四郎助光射倒と頭を圖

星月夜顯晦録二編卷之四

星月夜顯晦録二編卷之四

實朝卿北條が亭を以て危難結城朝光君臣翼佐

和左衛門尉義盛江間相模守義時が向ひ再びかけし遠州あり老
衰小依と道るれと汝サさる大川辺をぬ除まの子息一族の面々諫言
由せしを左にたじく討平の將を義り向ふ何のたぞや自家乃
禍と川せさくふ似し争る子の色バその又不義に陥るすとあり
彼遠州一皿の詞を渡し是非誅伐の義をすさるる由相州居て角め
多らんかく動乱ふに至るす忠孝を守らんぬれおそ誠を死せ
ぶ死知るる貴辺後者を執り大川原助らとバ是居よたあり又又して
諸人の怨を嘲うりしめ悪名と除く是孝をすべやその二つを辨へば
不孝不孝の舉動ハ遠州の子息ふれぬざる也斯中某幕府



中時以来。随分私多く。大臣の滅亡を
めつく。我身と多し。安穩の心更ふり。梶原平三景時を。その後の継
みく。天下の然人憎むるはげしく。前との功ありと。右幕下
罪せんと。便多く。省め並せむひし。金吾前君の中時。天下
の為るれば。連書しく。彼が罪を。左の奸悪を。一命と。さ
追放せし。彼謀反の。彼えあ。い。くも。実否を。れ。さ。し。の。討手
作沙汰。及ぶ。後。も。天。誅。道。を。不。る。終。に。逐。電。の。途。中。を
誅せり。景時。た。悪人。と。幕下の。寵臣。と。鹿忽の。誅。ハ。加。へ。ぬ
は。中。直。の。忠。臣。也。公。達。の。中。に。頼。並。の。人
る。頼。毛。げ。は。筋。人。に。依。り。左。右。の。礼。明。多。又。子。と。誅。せ。ん。
て。天道。は。北。背。の。罪。君。の。中。時。は。諸。臣。中。に。某。一。人。遮。り。妙

中。不。礼。と。お。せ。れ。ん。が。君。の。中。時。を。左。信。実。と。中。時。知。り。あ。上。の。早
く。進。人。頼。毛。法。師。を。誅。戮。し。重。忠。が。亡。塊。と。慰。め。め。ん。と。せ。ぬ。神
明。の。怒。を。宥。め。り。う。道。理。の。ゆ。え。と。君。尼。と。と。し。め。北。条。又。子。は
士。列。系。の。中。に。將。り。知。り。述。り。う。也。道。理。至。極。を。知。り。へ。君。の。若
年。の。中。時。と。む。と。お。せ。可。惜。大臣。と。鹿。忽。誅。せ。り。不。便。な。れ
と。く。活。疾。敷。行。は。及。ぶ。時。改。め。覚。め。り。也。計。の。道。は。坐。と。し
也。尼。と。中。時。の。巧。の。巧。め。り。の。存。る。美。盛。と。言
と。怒。り。多。く。も。道。理。は。款。を。詞。を。け。し。何。と。仰。ら。り。も。る
く。不。足。の。辨。は。し。り。美。對。と。又。と。煉。る。恨。め。は。周。回。て
返。答。も。及。ぶ。面。色。土。の。下。に。在。り。美。盛。條。り。又。將。り
詞。を。り。又。子。の。耻。辱。と。す。う。美。盛。と。深。く。怒。り。北。条。和



山崎闇斎先生遺稿

四



星片夜二編卷之四

島山直忠
又子の
おど
仙を
行るを
因

三

田不快らゝ根ぞ。天下の為小北条を亡えんと後、和田合
戦の大乱と云ふは、君の美盛が領より。稲毛重成
を戮とせり。直に命せり。是れ、時政も、技士の味方と
入道、残念と云ふも、君命を承ふ所也。此美盛も、同く、美盛大
河内三郎、宇佐良と市に命し、稲毛三郎又子、悉く、殊せり
べしと下知をせり。是れ、おとけ、度の騒動、魚くさる。人の心と
遂に、後、重忠又子と終言せり。彼入道が、所為と知る者
の。あつと、さる。今の由と、竹く、拳、握り、齒、齒を、スリ、言
語、は、終、つ、法師、の、佞、悪、奴、と、殊、せん、と、を、嫉、み、れ、彼、が、肉、を
斬、り、重、忠、又、子、の、美、は、祭、奠、古、儀、軍、の、美、は、人、と、勇、と、況
び、加、勢、と、云、ふ、と。若、殿、原、宇、佐、良、大、河、内、は、隨、ひ、こ、れ、も、く、と、此

混、り、後、又、二、千、餘、人、の、大、軍、と、る。即、時、は、稲、毛、が、宿、所、に、押、寄、
混、り、と、り、込、め、高、命、を、潰、る、も、及、び、血、氣、の、壯、士、亦、二、三、は、
近、入、り、稲、毛、は、従、人、の、と、も、ハ、士、卒、も、面、悪、し。一、人、も、餘、ら、み、し、
嗚、り、つ、て、切、め、ら、れ、時、稲、毛、入、道、も、好、斗、成、終、し、首、尾、ら、く、富、山
を、滅、亡、と、せ、定、め、北、条、の、執、達、も、思、賞、不、致、と、云、は、は、ひ、の、
り、知、へ、び、け、り、た、封、平、有、り。其、時、の、振、返、り、も、大、に、驚、れ、
云、ひ、つ、つ、狼、藩、ぞ、と、狼、嗚、強、に、防、ん、と、さ、り、小、術、も、唯、述、出、
さ、ん、と、の、こ、こ、ま、り、ひ、ら、り、封、の、軍、声、も、終、者、の、張、率、國、滅、乃、
入、道、と、通、と、り、出、口、を、圍、め、攻、封、り、也、稲、毛、又、子、甲、冑、を、
と、り、同、も、る、素、肌、も、通、と、り、と、り、れ、ど、も、四、方、通、り、と、り、
通、り、と、り、と、り、後、大、河、内、三、郎、入、道、を、封、り、と、り、息、男、也、以、

早く君を討つる事とて。肝要なその序をうら。天蓋を誅し。猶
毛が怨を報し。事大なるが。親族の好男あり。ゆりん。何卒く君を討つ。館
へ請ひまう。密に害しまう。尼公と女のうら。結くや會く。急る病
死と披ふ。一家督相統のよ。君の川門。源家の氏族。そのよ。を
聳の武。朝雅をうら。武將と。も。不。者。は。うら。
我が天下の格勢。悉く。け。方。不。子孫の繁昌。は。之。あ。へ。うら。と。
幼め。あ。む。時。政。も。う。度。の。う。ふ。村。美。盛。を。深。く。悪。め。む。一。門。廣
さ。大。牙。也。一。等。閑。又。斗。が。う。牧。の。方。不。用。ト。ま。う。君。を。討。り。其。序。は。彼。を
誅。せ。ん。と。内。に。大。悪。を。企。弒。逆。の。用。意。願。之。時。又。同。年。閏。七。月。十。九。日。此
條。名。越。の。亭。は。於。く。涼。風。の。宴。を。催。し。歌。合。の。は。拵。め。し。て。実
朝。卿。と。請。ひ。ま。う。先。に。君。尊。敬。道。を。好。む。人。が。也。是。非。に。入。り。ん

扱ふよ。斗。ひ。且。と。文。道。の。り。ゆ。へ。世。の。面。も。文。筆。の。筆。の。と
み。く。は。備。は。勇。士。候。せ。ん。ば。謀。不。易。し。よ。巧。き。而。も。夜。陰。乃
る。ま。ん。は。服。部。は。毒。を。入。也。扈。從。の。輩。を。誅。し。す。と。押。て。味。方。は
見。と。り。企。し。て。既。に。その。日。至。り。実。姻。々。未。の。刻。より。名。越。の。亭。に
入。り。し。る。北。条。時。政。は。び。限。り。種。々。餐。食。有。り。時。は。和。田。美。盛
今日。の。拵。宴。は。乃。と。あ。ひ。前。より。時。政。の。私。意。を。不。審。ふ。や。一
害。を。り。中。と。独。を。痛。め。り。る。か。人。子。殺。せ。ま。き。り。あ。め。り。は。い。ん。ば。と。く
危。を。見。る。が。も。先。に。人。へ。あ。め。り。む。い。し。し。救。ひ。ま。ん。や。と。只。妻。を
早。く。忠。臣。一。人。を。撰。び。守。護。さ。せ。ん。が。其。め。む。む。結。成。七。郎。胡。老。を
人。亦。も。う。を。不。く。も。優。し。く。あ。の。道。に。幼。を。ま。る。男。あり。志。も。忠。義
厚。く。智。勇。を。兼。ぶ。武。士。ま。ん。は。彼。は。扈。從。を。え。り。り。と。結。成。を。拵。り。密

川原の遊樂



名越の亭
亭の
涼凡の
宴
催

遊樂の川原

七

密に大義と称す。君の御供を願ひ備ふ附まらせ。食物もあらず
 幼少。姑候御断り守獲りさるべし。御帰館あるまじく。茶も御
 辺へおけなむこと。食はれぬ。胡光子の意を以て君へおひおる。抗を
 ふしうく。御供の御供を仰付。且下されうと。上へ。若くは
 辱しと。宣ひ。扈役を許され。御供不召せし。且。胡光君の御例は
 川邊の御由断り。御茶御菓子不至るまじく。今味せられ。秋
 らむ。面より名を葉む。辨よりくる。一偏も酒を飲む。八方
 妻を配く。人志す。幸勞り。且の向と別条あり。丁寧乃
 款待也。胡光か。安快の心せり。居る。於江間小太郎。泰
 時。先月。時政の命ふ。北条。下向。る。が。富山。重忠
 父子。不。御。せ。り。御。大。不。款。息。御。父。老。衰。り。

か。由。好。者。の。御。を。信用。し。非法。の下。知。あり。と。一。族。を。練。め。ず。
 こ。そ。謬。る。且。定。く。祖母。の。斗。ふ。る。か。い。え。と。武。義。守。朝。雅。稻。
 毛。入。道。兩。人。が。所。為。る。と。思。ひ。し。か。是。を。知。え。と。され。ば。又。祖。乃。
 悪。名。と。稱。ふ。と。不。孝。の。罪。由。深。あり。富。山。か。り。今。更。は。非。り。せ。
 め。く。向。後。り。非。道。の。う。た。孫。の。練。人。か。あ。い。と。今。月。上。旬。隠。念。
 歸。表。さ。る。と。い。ふ。も。何。る。も。云。ゆ。と。又。祖。の。行。跡。を。知。り。在。り。
 知。今日。の。御。社。君。入。り。ま。ま。を。と。り。れ。ば。北。条。の。氏。族。残。ら。ず。群。衆。
 給。仕。配。膳。も。ろ。と。さ。等。ろ。ろ。不。牧。の。方。が。勤。め。ら。る。と。云。時。
 又。子。ハ。何。の。御。留。守。候。守。と。し。と。祖。父。時。政。の。御。渡。せ。り。又。奉。付。
 甚。怪。し。と。云。ふ。大。江。廣。元。の。御。老。臣。の。面。に。殺。害。あ。る。と。云。
 守。と。い。ふ。何。の。別。条。め。と。云。君。の。御。父。と。大。切。な。れ。と。又。時。

袴下の方より作食煮の馬とく。又こころ小名越の亭へ推系し。下
 ろる巾持は欠席仕らんを残念と推て無出ゆとせられれば先を
 斜るる氏君の巾蓋をぬり侍せせめりぬ。牧の方夜ふ入る
 行ゆんと巧とせり待りぬ。時又子の方側は在を甚公若く
 より毒殺せり。又子の間をればより由俄くせり。名高し。下
 時刻よりれば君へ巾着を進んと。牧の方自ら配膳の役を勤む
 是より大切の謀也。他人の配膳をえり。且も君と母の教の弊を
 ん為る。既又牧の方巾着を持ゆんと。母は養育の完前より。牧の
 方の立振廻不審多れば。お侍房。知不。自身の配膳めり。養
 竹意不徹し。お勤し。身毛起やう不覚えり。バその候府を立。免
 小糸く。ハ巾持の義し。二ツの配膳の役勤人と存く。養祖母君

母老婢由へは後私不仰方。れく。と。牧の方坊より。憎ら奴と
 母は怒り。面不笑眉。成はく。去。母は孫の早も。神妙と去る。

君適の巾入り。老と厭り。配膳を勤む。女の身お煮の勤。巾辺ホ
 と常く。巾側は配膳。今日。配膳勤め。世。何。苦。く。人。祖
 母が志を立。孫の孝行より。我は任せり。と。あ。の。く。不審孫の
 養時。巾側は存く。配膳。せ。人。を。若。年。の。本。を。よ。め。曲。て。私。へ。と
 予。は。く。牧の方。夜。又。の。膳。勤。め。り。成。て。時。政。養。時。を。叱。り。祖
 母。小。任。せ。り。と。見。穿。ら。る。君。は。く。不。覚。え。り。の。長。め。り。は。遠。明
 ハ。ッ。が。教。め。べ。に。仁。ま。あ。室。家。の。配。膳。を。痛。む。人。知。之。せ。て。老。女。を。養
 時。早。く。は。不。審。多。く。と。宣。ふ。あ。ぞ。ハ。若。年。を。れ。ど。武。將。の。巾。一。を。養
 山。の。く。牧。の。方。は。非。る。く。役。目。を。不。識。く。行。き。小。君。を。食。し。君。れ

意あるが、燈と見えよしの綱を、か、混乱の中、長く結ぶ。唯一
 向、小千筋の繩を掛る。天晴の、智く感歎し、奥庭に、此より、西老を
 尋る。小千筋、光やせ、むく。千賀九郎、別力、小牧、是、正気、と、失、以、倒、是
 居る。之、泰、時、家、来、よ、命、也。引起、を、結、く、る。小牧、方、の、郎、亦、千
 賀、九、郎、より、し、く、ぬ。叔、を、と、推、量、し、も、ら、搦、め、ま、く、又、さ、る。如、是、時
 へ、完、前、の、騷、動、あ、ら、う、く。君、と、守、護、し、も、ら、館、を、送、り、ま、せ、や、う、く
 返、り、し、。松、子、の、あ、と、尋、る。小、泰、時、と、先、刻、作、持、を、飲、せ、う、く。初、は、乃
 か、く、存、せ、り、也。配、膳、を、代、り、し、。君、中、若、も、そ、を、あ、へ、む。然、る、も、又
 妙、の、を、は、仕、合、也。又、あ、ら、う、く、名、言、等、と、尋、け、は、ば、泰、時、は、れ、も、不、審、く
 也。ひ、し、く、密、に、作、持、を、改、め、る。小、毒、殺、の、所、あり。又、母、の、所、存、を、そ、
 浅、す、ら、れ、と、又、子、悲、歎、し、な、び、多、く。泰、時、又、の、耳、へ、私、語、を、ま、う、く、の、れ、
 斗、ひ、あ、ら、う、納、り、と、や、あ、を、後、時、と、同、し。即時、又、時、政、の、前、に
 出、り、。

時政、諸、傍、牧、方、自、害、義、時、執、持、の、職、を、統

叔、由、時、政、毒、殺、の、の、合、長、と、れ、も、千、賀、が、工、の、柳、志、と、る、由、へ、完、前
 の、騷、動、あ、ら、う、く。弟、小、鷲、を、居、り、し、。君、早、速、に、ぬ、り、あ、る、也。時、政、何
 り、の、影、を、追、う、と、恐、れ、し、。終、に、居、る、如、へ、義、時、又、子、推、察、し、。人、を
 拂、ひ、し、ら、る。今、宵、の、次、責、を、付、上、べ、し、と、量、る、れ、も、今、更、五、五
 り、死、後、也、行、る、も、中、さ、む。疾、く、作、出家、を、遂、ら、る。卒、願、み、し、。是、より、は
 ず、。時、政、の、義、の、尾、を、一、買、り、上、。學、ぶ、を、斗、ひ、出、し、。昔、時、由、於、穢、中、に、す、り
 ず、。兄、弟、の、為、悪、う、と、ん。子、と、て、又、へ、隱、居、を、勧、え、る。如、あ、い、と、千、万
 の、責、を、合、く、す、ら、る。也。時、政、由、孫、子、の、辛、前、面、目、る。後、悔、志、け、る

實朝の御成敗



四十四

實朝の御成敗
危き
難の
図

實朝の御成敗



四十五

明日北条へ移るべしと勅免直よその夜時政出家する。時六十八
 歳。養父子と君の中裁嫌より離れぬ。父母の罪を謝せん為夫
 下座へ急がれる。実朝卿ハ虎口の爪難を免れさせぬ。養父の亭へ
 入るべしとれども。中安うとむ。恐怖し。在る如く結城七郎 胡光章
 駄天のどききり。君の言ハ夫小渡とせぬ。心と收び名裁の始終と
 中上直小川館よりさきとんととる。夜中なれば路次の程とる。え
 う。小供の人敷也。時政一味の軍ある。彼を先多し。夜の明るを
 待り知る。養父時政父子取ま。君前へ出。今宵の結城父母乃
 底子もその実と存す。先某某。小野の田苗守。彼
 とも。あまふ。と。守護し。

為推系仕る。斯の仕合中上と死。詞ゆゆ。よろ。曲者と。獨
 之。拷問の上より。中上。と。恐入。中上。君。時政。子
 が。負。を。感。ゆ。紀。子。と。父。と。も。の。同。の。母。と。り
 たり。養。父。と。り。父。子。教。味。方。と。る。糸。添。り。と。む。ね。は。り。ん。ど。汝
 亦を疑んや。さ。曲者。子細を問べし。宜ひ。さ。時。寛。仁。の高。命
 小感涙を。千賀九郎を。一家の拷問。と。教。光。を。列
 唯。今。拷。問。の。席。に。臨。ん。で。責。苦。も。な。ら。ず。小。牧。の。方。の。企。武。守
 胡。雅。を。武。お。と。り。後。榮。を。と。り。為。今。宵。君。を。害。殺。し。ま。ん。と
 謀。り。し。る。も。養。父。時。政。と。り。て。い。は。れ。俄。に。某。と。余。と。害。し。ま。ん。と
 し。ひ。と。い。は。れ。中。上。と。り。時。政。時。政。則。け。中。上。又。母。大。罪。を。犯。し。て。は。縁

我を道がくけ。去るが。竹竿旧好は免せしと。殊戮の義と某ふ
 仰身と下さる。子孫永く誠志を尽し。報恩は後まへと。餘
 義もく。救ひたる。小君も。義時父子か。公中を憐れ。お。台。時政より。我は
 祖父の名あり。殊更今宵の危難。汝父子が救はる。く。免。此功めれ
 ば。父母の罪名は。赦す。義時の身。ひ。さ。と。仰渡され。る。あ。義時
 大よ。收。び。養。時。り。う。とも。再び。名。越。の。亭。へ。至。ん。と。さ。る。あ。義。時。が。郎
 亦。名。越。は。残。し。並。る。り。の。元。死。せ。り。牧。の。方。唯。今。自。害。あり。と。注。進
 と。是。ハ。千。賀。九。郎。搦。捕。ら。る。る。義。時。は。及。び。討。殺。せ。り。由。出。家。の。と。く。と。
 牧。の。方。れ。方。り。う。万。る。義。時。が。身。ひ。と。さ。る。と。バ。父。子。と。も。継。母。ま。れ。が。
 安。穩。あり。並。や。か。と。己。が。意。は。引。投。比。後。は。自。害。して。死。る。義。時。父。子
 歎。く。至。く。む。り。と。を。め。き。と。女。と。も。の。罪。通。を。き。よ。め。ん。義。時

める母也。罪名甚ど難。流るじ。自害あり。せめく。の。と。と。義。時
 又。は。向。ひ。祖。父。の。り。出。家。の。う。披。衣。あり。別。の。中。外。あり。と。す。る。
 此。間。よ。平。夜。も。ゆ。り。れ。君。を。中。所。へ。移。し。と。存。り。夜。前。の。義
 包。め。り。も。隠。る。諸。士。は。修。へ。君。と。守。護。の。為。に。お。し。と。此。事。は。中。搦。捕
 と。何。人。を。以。革。小。供。奉。せ。り。尼。公。の。中。所。へ。移。し。と。存。り。義。時。直
 小。系。上。り。父。母。の。罪。を。下。さ。る。ふ。よ。り。その。罪。を。極。め。ん。と。存。り。知。又。は。疾
 出。家。を。遂。母。の。先。赦。を。悔。し。自。害。は。及。び。け。し。と。又。入。道。を。豆。洲。に
 移。し。恩。謝。の。為。君。の。中。武。運。四。海。太。平。祈。せ。し。又。は。元。二。一。継。母。の。幼
 め。ふ。よ。り。知。老。衰。の。心。は。憂。る。り。る。企。を。り。ゆ。と。曲。老。が。白。状。は。ゆ。と。致。し
 久。尼。公。も。前。夜。の。う。夜。中。に。殺。せ。り。嚮。小。阿。波。の。局。が。世。と。と。り。合。れ
 と。る。継。母。の。自。害。父。の。出。家。あり。と。る。れ。義。時。の。教。ひ。は。僅。せ。れ。遠。死。罪。め。れ

九君の由祖又尼の由父の由罪由加下れ難く。殊に法華教の方自滅と云ふ時
 美少尉中難と救ひある者も免ぜし。時政法師を伊豆の古御へ
 送らば。仰渡されし。義時あり。その日又入道と
 宣州へ突駕させ。牧の方悪人なれども。継母なれば。疎より。かく。
 是も北條へ送る。尋らしめ。千賀九郎を刑し。静謐なる。既に時
 政隠居し。執持職あり。尼公の由法と。受時を。又時を。かく。又
 の職を嗣し。めんと。今日見し。以依を命せし。時よ。元久二年
 閏七月廿日。北條相模守義時。後金二代の執持と。かく。万事を管司
 せし。嫡男義時。又と。疎め。祖又。尋常の由隠居する。相継ぐ。執持を
 承せし。入。べ。れ。る。れ。ども。君と。執。せ。んと。申。り。な。し。逆。意。の。罪。あり。こ。ゆ。く
 たる。と。存。せ。し。も。父子の。間。也。の。咎。め。る。と。寛。仁。の。由。宥。免。れ。ども。由。縁

家の。な。と。存。せ。し。も。眞。加。余。の。由。惠。と。し。る。日。教。由。経。で。高。職。と。象。で
 る。も。存。せ。し。も。結。士。の。手。前。也。あり。一旦。由。辞。退。あり。年月。と。送。る
 方。勲。勞。怠。る。と。その。功。を。以。て。職。を。受。ぬ。り。正直。自。修。と。教。と。諸
 人も。帰。伏。仕。づ。れ。あ。く。ゆ。と。申。す。義。時。は。その。時。を。以。て。蓋。之。又。罪。を
 と。し。その。子。忠。あ。く。行。を。乞。と。誓。む。と。し。既。又。誠。心。の。由。と。字。す。と。
 君。と。救。ひ。ある。時。は。父。の。罪。を。償。ふ。と。是。し。り。執。持。を。一日。由。り。て。時。の
 へ。う。は。れ。る。と。誰。も。勤。め。る。事。と。老。臣。の内。よ。命。せ。し。時。は。時。に
 半年。一。年。の中。よ。召。返。さ。す。と。由。其。と。の。由。り。執。持。の。時。は。職。責。と
 他人。の。り。の。と。あり。と。家。自。ら。衰。微。な。る。と。は。亦。今。辞。退。さ。す
 請。ふ。之。結。士。亦。爭。う。偏。執。と。する。ん。や。時。家。は。職。を。辞。して。忽。地。威
 と。失。ふ。べ。し。と。申。す。義。時。歎。ぶ。と。云。執。持。を。勲。め。る。威。勢。あり。と。云。は。

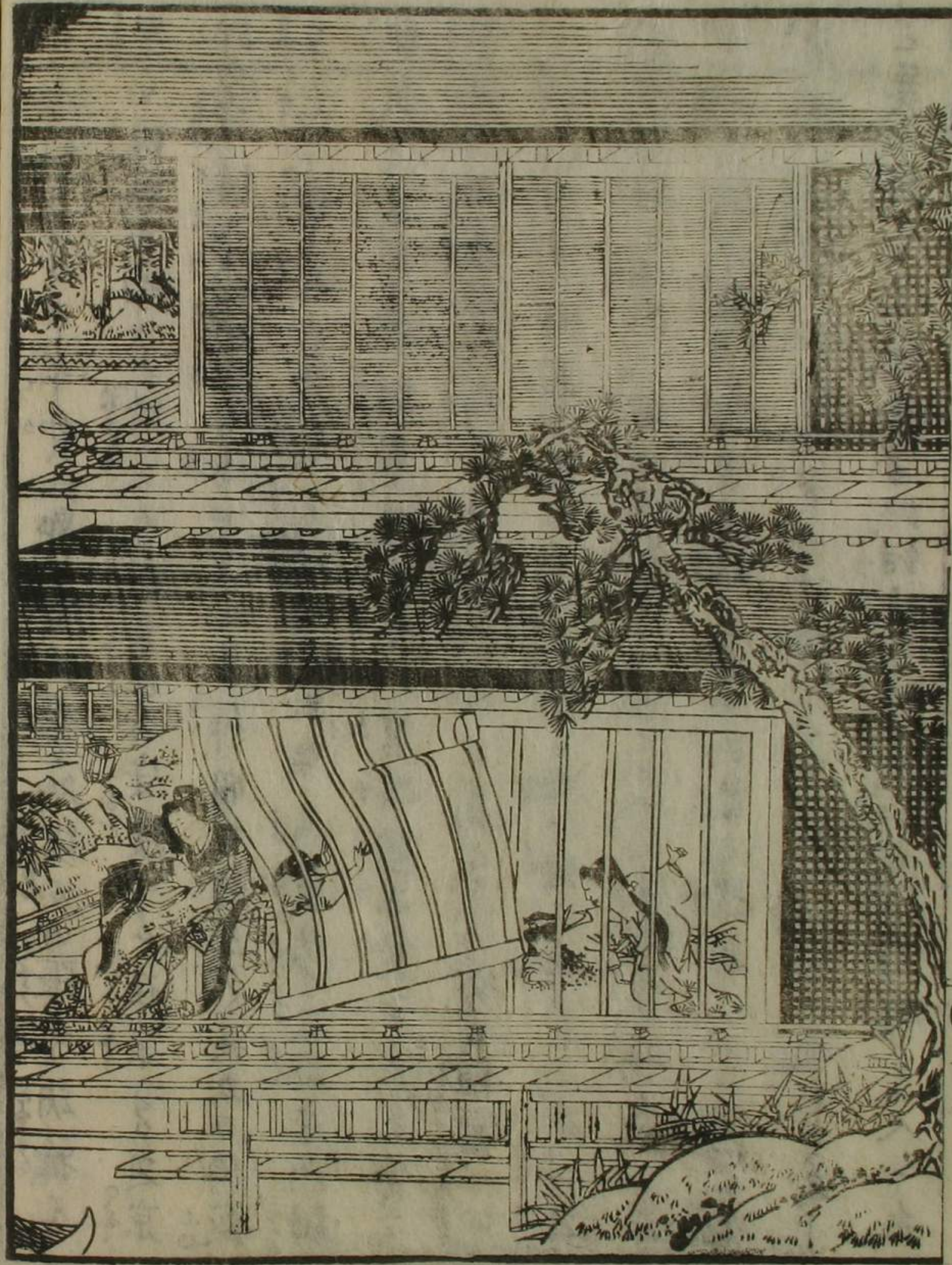
るや、武士の威の勇ふらむ。武ふらむ。只正直と才一と。賞罰と
 明は私るれ時と。然人心中を慕ひ。自然と威はゆるは。或々君寵と
 憑え。又々縁家の好身は。勇ふらむ。後威と震ふとも。道は遠は。永く
 保と往ふす。祖又々老年とや。加外戚あり。昨日まを々天下の持威
 一人はまじり。由今日々不意の出家と。遂にけり。名台合さる。富
 山重忠ハ壯年の時より。其名高く。才職は居らむ。と之ら。人衆
 敬ひ。老臣と稱さる。仁義と守り。正直るる。やゆへ。希くハ誓く。執
 持を辞し。仮ふらむ。役を勤め。然士の手前も。軍も。んと。理を正
 練ゆけ。且ら。義時。柳も。用ひ。大令。遠背。放。く。く。終。ま。その
 日。より。又。代。く。執。指。職。は。信。り。使。者。門。前。は。市。さ。り。威
 勢。益。盛。之。り。我。ら。は。度。の。悪。之。武。將。も。胡。雅。と。り。く。武。將。と

と。せん。巧。ま。る。ら。う。千。笑。九。郎。が。白。状。を。る。如。謀。及。の。張。率。胡。雅。を
 早く。誅。戮。あ。る。と。評。定。を。彼。京。郊。の。守。護。を。在。京。と。東。京
 郊。の。守。護。人。ホ。ハ。以。義。と。命。せ。ら。る。此。花。飾。同。日。打。ま。く。廿。五。日。の。夜
 京。より。佐。々。左。門。尉。基。清。五。条。判。官。有。能。ホ。命。を。う。け。め。り。
 親。長。後。右。左。尉。尉。基。清。五。条。判。官。有。能。ホ。命。を。う。け。め。り。
 翌。日。胡。雅。宿。不。六。角。堂。東。洞。院。に。押。し。入。と。せ。り。今。日。胡。雅。仙。洞
 小。系。り。助。吏。の。間。基。の。會。あ。り。則。盤。を。向。ひ。囲。を。居。る。小。郎。ホ。雅
 其。く。胡。雅。と。呼。ぶ。追。討。使。向。ふ。苦。る。小。系。來。武。勇。勝。且。り。の
 也。小。由。騷。を。再。び。え。の。坐。候。基。の。目。等。は。務。員。と。な。り。後。は。関
 東。より。追。討。せ。ら。る。の。使。命。あ。り。適。れ。ぐ。く。之。ハ。身。の。口。暇。を。め。り。
 と。奏。し。終。り。館。小。系。如。討。手。の。將。士。ホ。仙。洞。中。所。近。く。人。と。並。



三日月の夜に編み入り

五



三日月の夜に編み入り

て伺はせ。唯今、新雅退却と告ぐる。即時、小彼館に押入り、上命を
 述べ、二ツ三ツ攻まる。胡雅郎、ホトとて討死す。唯、又と有りし、勇
 るれども防、残す。一方を討破り、遁えんとする。知り、
 山内刑部太輔、俊常が六男持寿丸、後通俊、放矢、新雅が牙中
 子、馬をその首を取り、討平の軍、陣に、武藏守、謀反の企
 める。在、當人、従来、意、退治の由、羨、同し。後、倉之注進、せらる。君、山、安堵
 せし。持寿丸、去、年の働、き、徒、氣、と。其、感、の、餘、り、又、俊、常、を、勢
 州の守護、不補せし。元、某、伊勢、伊勢、山内、守護、の、願、あり、去、年
 伊勢平氏の、逆、徒、起、り。俊、常、を、攻、む。初、り。逆、徒、亦、大、軍、山、内、を
 小勢、あり、不、意、を、討、し。防、残、す。一、族、り、と、江、州、に、退、る。
 小、深、倉、より、逆、徒、征、伐、の、表、を、胡、雅、に、命、ぜ、り、と、り、又、胡、雅、伊、勢、不

発向し、合戦、不、及、び、し。時、山、内、俊、常、又、子、朝、雅、に、加、り、戦、功、を、尽、し。伊
 勢平氏、を、平、げ、一、國、静、謐、よ、う、く。其、時、後、倉、に、注、進、し。牧、の、方、内
 意、を、頼、り、山、内、俊、常、を、逆、徒、と、恐、れ、國、を、出、奔、り、臆、病、の、至、り。其、後
 ハ、竹、の、為、り、也。此、度、に、賊、徒、を、退、治、し。國、を、平、治、せ、り。為、り、一、戦
 小、も、及、び、を、逃、亡、せ、り。論、に、及、び、し、知、之、と。俊、常、が、戦、功、を、示、す。後、倉、に
 と、構、へ、此、度、の、戦、功、を、守、護、を、私、に、仰、け、り。且、下、され、と、有、り、也。時
 政、の、取、斗、ひ、あり。山、内、に、守、護、を、放、さ、れ。朝、雅、に、仰、け、り。且、了、か。今、度
 朝、雅、滅、亡、よ、う、く。俊、常、熱、状、を、捧、げ、り。也。穿、鑿、の、と、持、寿、丸、が、平
 柄、に、死、す。是、の、と、守、護、職、を、補、せ、り。也。俊、常、熱、眉、を、開、け、
 ぶ、と、限、り、。

和、田、盛、吾、妻、助、光、が、隨、兵、不、系、の、罪、を、糾、す

叔も長時執権とて。又小督とて計りて。和田氏盛大江廣
 元と會し。以海を難とて。時政に外戚とて。君を弑見
 と謀り反賊あり。その夜の石巻難朝光に例ふべし。免るべし
 也。逆罪の時政罪名の沙汰多く。入道して幸國に隱居仰せり。を
 身不取て。目出度義。罪を担い幸を得る人も。乾坤開く時政人
 あり。比企能員も頼家々々外戚とて。謀反の計あり。親族従
 親忽地誅戮せり。此是とも。私員主君を害え。企よのべ。北条の
 非道を亡え。巧るれば。奥の逆臣と云ふ。非心騷動を好む族也。誅
 伐の。是も叔が是の時政も主君を害えとて。其の大臣君の兒
 為め。祖父の罪あり。害を被む人倫の道あり。法を以て
 罪せ刑首せり。以憐愍め。切腹せり。若ねば。外戚の心長

頁十分あり。流刑と云ふ。罪の沙汰多く。却て奉鎮は。隱居
 とて。承久の。幸福子孫。後世の。以替る。判義時父の職
 を継ぐ。めめ。更に理は。當り。是時道を。是を。辞退。罪を。償
 補ふ。こそ。職を。是。又。祖。母。貞。と。存。り。遠。る。由
 せ。執。権。を。是。父。を。悪。人。と。己。を。吾。人。と。呼。ぶ。不。孝。不。義
 と。云。べ。実。忠。貞。を。安。が。畠。山。誅。伐。の。時。父。を。補。る。や。君。柱。石。と。云
 賢。臣。を。害。せ。んと。是。父。の。惡。を。練。め。結。句。討。平。の。將。を。是。向。ひ。又
 を。非。道。ふ。赴。く。め。る。不。孝。君。の。良。臣。を。討。不。忠。旧。友。の。情。を。忍。ぶ。の。不
 義。三。つ。の。の。を。武。士。の。耻。を。身。一。と。云。ふ。孝。を。忍。ぶ。義。を。失
 する。身。の。誤。を。顧。む。根。を。握。り。んと。命。を。ら。尼。公。受。る。の。見。君
 の。威。光。を。衰。へ。北。条。一。家。の。掌。握。と。云。ん。て。鏡。み。け。る。に。

漢の高祖皇帝崩じ。呂后の一族持を奪ひし。異るるといひ。公の
 單悼を歎つ。とんやと怒の快で會々。天下の安危を述り。廣元も
 盛の格言と感し。俱に落涙し。廣元も以後を思ひ。れども。君の若年母
 公の心斗ひ。ひる友。や先づを振ゆる。その修ふら。ちるる。いほ。く。浅く。ん
 公討ひ。る。沢。修。和。田。を。深。く。恨。み。思。ひ。ね。を。是。と。う。兩。雄。並。立。る。
 磔言。ふ。り。支。人。と。量。り。和。田。の。謀。士。の。別。當。と。し。て。張。余。草。創。の。大。臣
 一族。廣。く。老。功。の。柱。石。と。す。公。討。ひ。壯。年。な。れ。ども。君。の。心。由。法。執。持。の。威。と
 り。つ。く。上。ま。え。ん。と。北。条。を。以。て。未。く。不。格。威。後。に。解。置。又。の。代。不。倍。し。和。田
 の。外。族。の。と。く。多。く。持。憤。目。く。僧。長。せ。り。右。幕。下。の。心。討。め。上。明。ら。る。に
 り。沢。管。る。心。家。臣。千。葉。三。浦。畠。山。和。田。の。單。政。道。も。即。を。碎。き。月。よ
 ぶ。の。れ。ば。臣。下。乞。と。練。め。君。又。用。ひ。め。ふ。也。自。然。と。君。臣。和。合。し。張。余。山

の星月夜と稱す。和の敵意榮る。し。ふ。新。於。々。薨。去。十。年。中。経。る。ふ
 持。と。大。變。の。つ。く。千。葉。三。浦。の。病。卒。し。我。と。め。畠。山。の。鏡。誅。せ。り。れ。君
 の。若。年。も。く。丹。々。執。持。の。斗。ひ。上。平。ら。く。下。棄。め。長。く。張。剛。め。く。由。或。と
 傾。地。を。論。じ。又。の。當。坐。の。口。論。を。駭。劇。と。し。牛。絛。止。時。り。世。上。靜。謐。り
 似。く。皆。も。親。る。ふ。幕。下。定。め。並。め。ふ。而。の。老。臣。既。人。を。め。り。く。に。せ。れ
 け。お。こ。も。め。る。ま。い。こ。ふ。愁。才。智。め。の。似。り。つ。く。尼。の。臺。武。將。も。か。つ。り。て。四。海。の
 政。道。を。夫。せ。り。る。由。へ。倅。り。る。君。の。不。發明。ら。り。と。も。女。性。の。才。正。馬
 天下の安危を去り。せん。され。ば。君。々。名。の。も。少。く。張。臣。北。条。を。階。ひ。勅。り
 振。り。集。め。り。種。々。適。活。残。り。老。臣。由。時。の。持。不。辱。止。按。順。例。も。思。て
 罪。を。犯。し。る。持。門。又。ま。く。追。從。を。り。く。く。つ。ら。く。を。と。り。り。難。免。と。免。る
 我。車。号。り。り。る。その。年。由。尊。元。久。三。年。四。月。改。元。め。り。建。永。元。兩。寅。し。

八月十五日鶴岳八幡宮放生會より。例の如く君の系請差
 て隨兵と命せり。當月に至り不系のものあり左右の行征不
 代と申せられれば。擧げざるも。暫く不系官を待たぬ。未
 の刻は。卯の生あり。翌日八幡宮流瀧馬。是又不系宮との翌十七日
 和田義盛君へ上り。云。一昨日隨兵不系の者あり。前夜に命せり。我
 知るのと。然れ。君と將ざる所為。さうのさう。不威勢。薄くる。我
 と振舞族。生れ。終る。乱を生じ。早竟幕下の定め。並せり。法令
 乱れ。道は遠く。不斗。ひ。間ある。也。不當時。武將を。恐れ。こ。何と振
 舞。不答を受んと。必。時。格。門。を。お。又。奥。局。の。吹。卷。よ。ろ。て。
 忽ち罪を。通。り。也。始。り。終。を。極。り。不。礼。の。隨。兵。を。武
 の。つ。え。の。紙。り。く。命。せ。り。子。の。身。の。器。也。も。云。く。り。の。う。終。る。也。

不系。不系。又。の。近。来る。一人の。友。も。君。の。出。を。止。め。多。くの。不。供。と
 鳥。下。し。今。是。を。弘。明。と。い。ふ。後。偏。不。下。知。は。存。び。ま。り。終。て。の
 房。女。中。の。内。美。と。急。度。停。止。め。我。主。の。族。の。身。に。之。何。う。う
 よ。不。供。の。後。不。直。不。斗。ひ。も。り。諸。人。の。言。悪。を。無。へ。知。せ。り。と。い。ふ
 四。海。の。代。官。と。い。ふ。中。に。近。く。金。吾。二。品。政。道。と。い。ふ。と。い。ふ。は。後
 不。君。を。武。將。と。仰。ぐ。君。り。一。言。り。や。ま。さ。く。維。り。血。脈。と。い。ふ。相。続。ある
 べ。し。は。此。を。不。賢。と。い。ふ。也。不。身。全。く。美。君。不。出。せ。り。未。代。の。相。続。の
 事。を。肝。要。不。代。幕。下。の。草。創。の。り。後。食。美。又。四。海。追。捕。使。の
 職。と。容易。他人。の。掌。握。と。り。も。り。口。惜。き。は。才。不。也。君。今
 不。若。年。み。く。不。道。由。お。り。大。切。の。不。時。不。代。終。る。必。不。可。也。を
 不。と。不。言。を。言。り。不。君。を。不。也。隨。兵。不。系。の。族。不。直。弘。明



四ノ月及二浦家ノ口

十四



おつた
音妻四郎助光

おつた
おつた

おつた
おつた

星月夜二高巻之口

十三

めんと。義盡は令せしむ。兵士の別當の役多し。彼軍を悉
 有する。元其義盡は上より。北条より。隙より。我より。尊分。君と忠
 忠む。期は予と。己が。まよ。けり。と。わかれ。断る。不系。族を。ん。ハ
 度。も。その。あ。く。在。し。小。呂。々。と。び。く。俄。又。驚。死。即。時。小。北。条。に。使。う
 又。小。奥。女。中。と。お。れ。急。病。の。由。不。系。と。傷。り。持。門。の。吹。巻。も。く。い。ひ
 按。り。軍。由。め。り。その。中。小。吉。妻。四。郎。助。先。弓。馬。小。達。一。射。手。又。撰。手。
 新。の。力。の。ま。り。が。隨。兵。の。仰。を。義。り。故。由。も。く。不。系。せ。し。ま。ふ。て。け。交。唱
 物。れ。民。部。太。輔。行。光。と。み。く。見。ゆ。ら。ハ。助。先。左。半。の。大。刀。又。非。ぶ。と。之
 ども。頗。勇。敢。う。也。新。家。の。勇士。は。準。隨。兵。の。役。小。加。ら。く。知。る。り。予
 牙。の。面。目。先。を。競。て。も。度。ど。き。も。断。り。も。及。び。と。不。系。せ。し。む。り。所。存
 あり。否。助。先。恐。入。く。陳。謝。し。全。く。仰。由。所。存。る。く。ゆ。實。は。眉。目。さ。る

ぶ。此。後。養。る。れ。ハ。義。と。令。せ。し。且。ん。と。を。形。ひ。曠。の。義。は。少。く。急。乃
 支。度。延。濟。の。基。と。ん。疾。用。意。は。る。所。の。具。足。その。夜。小。至。て。嵐。の
 為。は。破。損。し。俄。に。速。を。失。ひ。是非。も。く。中。後。む。ら。ハ。供。と。欠。け。服。着
 へ。る。と。ナ。上。る。義。時。彦。ト。ゆ。ら。が。助。先。ハ。中。条。その。綱。多。く。な。り。ハ。バ
 役。司。を。收。び。丈。切。を。存。し。用。意。さ。る。如。の。具。足。を。兼。又。荒。れ。周。章。了
 依。り。延。り。る。元。正。直。の。法。不。な。れ。後。と。結。め。ら。る。は。及。ぶ。と。ハ。後
 を。後。に。大。誠。を。忘。り。と。な。れ。と。ナ。れ。ハ。執。持。の。一。言。大。令。の。下。く。助。先。は
 が。た。仕。合。と。平。伏。と。和。田。義。盛。進。も。出。相。例。が。只。一。條。の。綱。を。以。て。
 助。先。懐。疑。さ。り。成。無。へ。ぬ。ら。る。や。役。月。を。大。く。曠。の。義。を。存。す。也。用
 意。さ。る。程。と。ハ。彩。調。の。具。足。さ。る。ら。是。甚。本。を。背。り。隨。兵。ハ。何。れ
 為。ぞ。君。の。警。固。し。し。め。ん。と。勇士。を。撰。り。ら。る。と。行。粧。を。儀。る。と。為

る。殊更助光只一依の具足を切とけ。後月小障る条。又
 去る。其の之。新造の遣損。去る。出た。此や。皇代の兵具を
 正。依。勇士の眉目と。思。祖の遣。押。傳。る。行。を。用。さ。る。や。
 但。一。用。上。の。遣。つ。も。又。別。又。持。有。具。足。の。さ。る。や。新。中。の。兵。官。を
 順。例。の。神。る。以。度。の。さ。の。下。に。隨。兵。又。撰。び。つ。る。その。度。を。遣。を
 新。造。と。さ。る。や。儉。約。の。美。小。背。と。さ。る。君。を。守。護。の。隨。兵。を。養。り。遣。
 を。損。び。さ。る。供。奉。と。欠。々。不。忠。の。賊。彼。が。知。御。由。道。理。を。思。祿
 知。百。と。と。明。白。又。上。と。さ。る。君。由。益。盡。か。不。理。の。當。然。と。さ。る。
 百。助。光。の。依。左。右。と。さ。る。陳。謝。り。少。奈。不。當。之。出。仕。を。止。べ。と。仰。
 り。吾。妻。四。郎。ハ。完。初。長。時。の。御。少。く。安。堵。せ。よ。と。益。盡。が。上。と。仰。
 へ。と。罪。を。得。よ。と。さ。る。牙。は。恨。め。れ。ば。閑。り。と。退。出。せ。長。時。は。助。光。を

長。時。が。洞。主。が。依。安。と。さ。る。と。正。理。に。勝。つ。つ。と。不。快。さ。る。
 長。時。は。つ。つ。と。助。光。が。罪。を。以。免。の。執。り。せ。んと。さ。る。と。其。の。間。も。さ。る。
 二月。三。日。大。雪。降。積。り。し。君。雪。の。印。宴。の。ん。と。し。所。は。作。借。り。さ。る。し。
 大。指。太。夫。廣。元。相。摸。守。衣。時。右。京。進。仲。業。何。久。と。真。と。さ。る。と。さ。る。
 知。は。行。知。り。る。青。鸞。一。羽。進。物。所。は。飛。入。り。夫。は。深。殿。の。上。に。止。り。
 て。更。に。飛。行。せ。て。君。に。さ。え。し。し。映。り。り。る。が。美。小。が。石。上。に。射。留。べ。し。
 と。宣。ふ。お。亦。射。る。と。射。手。疾。せ。り。と。長。時。時。分。り。と。さ。る。吾。妻
 四。郎。助。光。の。氣。色。を。見。り。し。依。無。く。思。免。又。射。る。が。為。日。毎。山。所。辺。は
 了。備。軍。を。執。り。し。と。さ。る。由。以。撒。娘。と。思。を。執。達。さ。る。の。と。さ。る。

是く今日由所近く兵あり。彼と長く射さぬめいべいと執成り。
 外に射手多れば百あべと仰ふ。其時候に家来を馳く招きしを
 へ助えあはく。其時と射しつゝの軍に兵免をたひ。其へ行時
 ち進ぬる也。毎日音信を遣んと。其時下知しつゝ。所近く細
 一たる之。使とせし。勇と候。其より。小義射仰の音。使たれば。助え
 畏く。暮月のう。前。推り。其の階。隱の陰。伺。其。と。射り。小
 其の矢。ち。小。中。ぞ。一。か。後。へ。忽。ち。度。上。は。満。ち。一。を。助。え。投。て。敵。君
 ち。小。は。廣。え。義。射。不。変。る。が。と。其。を。見。る。は。眼。よ。御。血。の。出。る。の。外
 小。疵。あり。生。る。が。と。擲。る。其。より。その。衣。を。同。ち。小。只。今。放。せ。矢。を。獲。鳥。の
 羽。を。知。い。ぬ。中。ぞ。と。又。も。鳥。の。眼。を。引。く。通。ふ。より。血。を。り。て。地。よ
 墮。悪。く。殿。中。小。を。取。る。と。彼。射。ん。ち。は。矢。箭。は。ま。つ。た。怪。美。の。物。を。射

苗多へ。又。外。は。矢。あり。所。は。伺。公。仕。る。身。を。か。ず。の。義。中。あ。ん。く。と。空。留。直。乃
 其。の。夫。の。矢。を。り。中。携。ゆ。と。中。上。る。也。君。の。威。あり。誠。は。弓。箭。の。道。を
 之。掛。り。た。勇。士。と。中。賞。は。あ。り。と。直。は。不。真。免。の。一。は。汲。と。一。腰。直。乃
 り。も。助。光。一。面。目。身。は。餘。り。中。孔。十。よ。く。退。出。し。直。は。北。条。の。亭。よ。至。り。不
 真。免。と。若。か。つ。と。城。の。外。を。あ。り。と。殊。更。は。威。の。中。洞。拜。願。の。所。板。の
 厚。は。灰。に。思。死。と。あ。る。と。子。孫。永。く。門。下。は。美。し。い。人。と。さ。り。追。從
 志。は。る。義。射。中。は。身。を。死。と。て。免。さ。り。紙。義。盛。は。関。が。と。沙。汰。せ。を。和。田。守。と
 且。夫。の。見。款。子。と。下。の。執。務。と。も。り。り。義。射。の。多。れ。は。公。の。杜。死。や。助。光。非。法
 ち。あ。り。て。出。仕。を。止。す。と。是。改。法。と。さ。る。如。何。ぞ。文。と。く。其。美。色。を。兼。べ。た。罪。重。り。と。い
 其。の。時。謀。せ。し。と。所。領。を。没。収。せ。し。と。其。苦。さ。れ。と。い。ふ。と。其。罪。は。あ。ら。う。と。い。ふ。は。免
 色。は。免。の。上。に。汲。と。あ。り。し。は。其。美。色。を。兼。べ。た。罪。重。の。君。之。助。光。不。真。免。ハ。免。免

づ死時をたすれば寸功も及ぶよ。射麩を施しぬる罪を罪を罪にしぬ
 る如之。積善の罪を起すは罪人と云へ。夫れは其時自らの吹雪と
 ぬる浅きもろる。若死に當る罪人ありて。其時罪を赦んとするは年々力に
 及ぶ。善一救乃四海の改道依れとるべし。是程の善を毎に執持しぬれば
 助免又彼が執持すれば免を多かりしと追従するは行ふがや。其時より不取成免
 君のいふ。於君の恩を振う。小糸をせん。其れも持する麻ののちも
 づかぬ。其時又是を修け怒を食む。善盡老と自預し。人を侮嘲る亦嫉
 妬侮執の振舞奇怪と。尼之肉に上りぬ。善盡北条家の蟹目を如く
 君の諫言と稱し。富家と誹謗し。尼君を嘲りたり。吾我君のいふよついでに
 左や右後をもと生るる由へ女性のいふ。政子禪尼は。善盗を憎む。抄田が中
 上る程のいふ。よとく支る人どうとくをうけ。

星月夜二編卷之四終

